



在本邦英國公使館附海軍武官海軍大佐
 イ、シー、チー、ツル、ブ、リ、ツ、ヂ、叙勲ノ件
 右謹テ裁可ヲ仰ク
 明治三十七年三月二十三日
 内閣總理大臣伯爵桂太郎

内

閣

賞勳部第六一號 明治廿七年三月廿三日 三ツサシテ可

明治廿七年三月廿三日

内閣總理大臣 **ト**

賞勳部總裁



外務大臣上奏在本邦英國公使館附海軍武官海軍大佐イムシキツルブルツゲ敘勳ノ儀右ニ日英同盟協約ノ伴ニ彼我海軍交渉上帝ニ其杞機ニ居リテ兩海軍ノ聯絡ヲ保持シ終始我對シ其誠意ヲ披瀝シ軍事上緊要ノ諸報告ヲ供シ新ス我カ裨益ヲ圖リ帝國海軍ニ對シ效シタル功績洵ニ著大ナル有之然ルニ其勳勞ノ程度地ノ公使館附武官ト同一ニ論スルニモ

内

ノニアラス即チ超衆特殊ノ理由アルニテ今四年日露戰役ニ當リ親シク我艦隊ニ使乘シ實戰ノ場合ニ臨ミタル超然今般任期相満チ不日當地ニ去泰歸國ノ旨此際持お思召リ以テ右今ノ勳ニ等ニ叙シ旭日章下賜被仰云可也此段先裁ヲ仰ク

めくれず

賞勲局

在本邦英國公使館附海軍武官海軍大佐イ、
 シー、チー、ツルブリック儀ハ日英同盟協約成立
 以来英國公使館附武官トシテ本邦ニ駐在シ協
 約ニ伴フ彼我海軍交渉上常ニ其樞機ニ居リ
 テ兩海軍ノ聯絡ヲ保持シ終始我ニ對シテ其誠
 意ヲ披瀝シ軍事上緊要ノ諸報告ヲ供シ漸ハス
 我カ裨益ヲ圖リ帝國海軍ニ對シ効シタル功績
 洵ニ著大ナル者ニ有之候處今般任期相満チ来
 ル二十八日當地出發歸國可致候然ルニ本人美我ハ
 前述ノ如ク帝國海軍ト密接ノ關係ヲ有シ其勲
 勞ノ程度モ亦々他ノ公使館附武官ニシテ我ニ資
 益ヲ與ヘタル者等ト同一ニ論スヘキモノニアラス即チ超

外務省

衆特殊ノ理由アル者ナルノミナラス今回ノ日露戰
 後ニ當リ親シク我艦隊ニ便乘シ實戰ノ場合ニ臨
 ミタル等ノ廉アルニヨリ此際特別ノ恩召ヲ以テ勲
 二等旭日章下賜被仰出度旨海軍大臣男爵
 山本權兵衛ヨリ申立有之候間該勲章被下
 賜候様御執奏方可然御取計有之度此段申進
 候也

明治三十七年三月二十二日

外務大臣男爵小村壽太郎



内閣總理大臣伯爵桂太郎殿